

「式辞」

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。また、保護者の皆様には、子供様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

卒業生のみんなは、各学校において天と地ほどのレベルの差がある「学校の当たり前」。その城北高校の学校の当たり前を見事に高く引き上げました。「自分のことより先ず人のことを思え」の城北スピリッツをしっかりと心に受け止め、来校される方々が感心される誇りある当たり前に引き上げてくれました。今、城北高校は、「変わる。変われる」の希望と「楽ではないが、楽しい学校」の当たり前が未来への城北高校を見据えています。そして卒業後、自分の当たり前をあげて生きるあなたたちが見えます。

看護専攻科卒業生は、国家試験が終わって口々に「ここまで頑張ったのは、共に励まし合えた、この仲間がいたからです。」と語る姿を見て、そうこの子たちは、看護技能だけでなく、言葉とこの子たちが持っている空気と患者さんを救える看護師になると確信しました。このように誇りに思う、ここにいる全ての卒業生に「希望の言葉」を贈ります。人生の価値とは何か？人間の価値とは何かを突き詰めて、突き詰めていったときに、それは、人に「ありがとう」をどれだけ言われたかであると考えます。そのために「精一杯の努力」をして、自分の置かれた場所で、自分の生き方で、自分の仕事で、多くの人に「ありがとう」と言われる生き方をしていってください。また、その思いを表に表すことなく、表に見せるのではなく、心の中にその魂を秘めて人生を歩んでいってください。それが城北高校の卒業生の生き方として。

「この坂を上れば希望がある」前途を祝し式辞とします。

令和二年三月一日

学法人松浦学園 城北高等学校長 竹原英治